



# 『齋藤善右衛門翁伝』

齋藤報恩会著, 1928(昭和 3)


---

齋藤報恩会は宮城県旧桃生郡の大地主・齋藤善右衛門氏（1854-1925）により 1923 年に設立された財団法人で、当時画期的な、民間による研究費助成を行っていました。1926 年を例にとると、東北帝大が受けた助成金は、学内研究費の約 18% に相当する膨大なもので、八木・宇田アンテナを開発した八木秀次氏や、KS 鋼を開発した本多光太郎氏らの研究にも助成が行われていました。

東北地方の学術研究に多額の助成を行い、とりわけ発足したばかりの東北帝大の発展を支える存在だった報恩会の活動は、太平洋戦争末期以降はほとんど停止し、戦後、貨幣価値の暴落によって財政基盤を失いました。その後財政を再建し自然史博物館を運営しましたが、研究費助成を行うまでには至らず、100 年近く東北地方の学術を支援してきた齋藤報恩会は、2015 年ですべての事業を終了し、その歴史に幕を閉じました。報恩会の所蔵品は仙台市や本学に寄贈され、学術雑誌の一部が北青葉山分館に引き継がれています。

(参考文献)

- ・米澤晋彦著「東北帝国大学と齋藤報恩会」(東北大学史料館紀要, 第 12 号, 2017.3)
- ・東北大学理学部生物学教室五十年史
- ・東北大学百年史 3, 通史



## ■齋藤善右衛門 さいとう・ぜんうえもん 1854-1925

宮城県旧桃生郡の大地主であり、投資の手腕で莫大な財を成した、明治から大正時代にかけての実業家。余分の私財は社会に還元すべきであるという思想を持ち、1907 年には宮城県立図書館新築経費の寄付を行うなど、報恩会設立前から篤志家としての活動をしていた。

(参考文献：日本人名大辞典)